

報道関係者 各位

2015年1月27日

各界から注目を集める21世紀の数学 「現象数理学」の最新研究成果をここに凝縮！ 明治大学出版会より『現象数理学の冒険』を刊行 ～全国の書店にて発売中～

明治大学出版会は、「明治大学リバティブックス」の最新刊として、『現象数理学の冒険』（三村昌泰・明治大学研究・知財戦略機構特任教授 編著）を刊行しました。全国の書店にて3,000円（税別）で発売中。

「現象数理学」とは、これまで数理とは無縁と思われていた社会・自然・生命等の諸現象を解明するため、モデルを構築しシミュレートする学問分野です。

2013年に新設された総合数理学部現象数理学科では、位相的結晶理論、地震と津波のシミュレーション、先史時代文化の進化、金融危機をめぐる数理モデルの構築など、さまざまなテーマをめぐる研究が進められており、本書では7人の研究者がその一端を学生・社会人の方にも読みやすい形でご紹介しています。

明治大学出版会は、1961年に廃止された「明治大学出版部」を半世紀を経て復活させる形で、2011年4月に設立され、現在までに12冊の書籍を刊行しています。今後も特色ある研究を広く社会へ発信していくことを目的に、出版活動を展開していきます。



『現象数理学の冒険』

三村 昌泰 編著（明治大学 研究・知財戦略機構特任教授）

発行： 明治大学出版会／発売： 丸善出版

（内容紹介）社会・自然・生命等の諸現象を、最新技術を駆使した数学で記述する「現象数理学」。さまざまな分野に広がるその研究成果をここに凝縮！拡散パラドックス（三村 昌泰）、立体知覚と錯視（杉原 厚吉）、先史文化（青木 健一）、地球科学（中村 和幸）、金融危機（高安 秀樹）、タイル貼り（砂田 利一）、折紙技術の工学への応用（萩原 一郎）

（編著者紹介）1941年生まれ。先端数理科学インスティテュート所長、グローバルCOEプログラム「現象数理の形成と発展」拠点リーダー。工学博士。著書に『現象数理学入門』（共著、東京大学出版会）ほか。